2025 年 12 月 4 日

DBS グループ・ホールディングス（DBSM）

ウェルスマネジメントが堅調。国内首位の AUM と預金シェアの基盤を生かし、富裕層市場拡大の恩恵を受ける

シンガポール | 銀行 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG DBS:SP | REUTERS DBSM.SI

- 2025/12期3Q（7-9月）は、総収益が前年同期比3.1％増、純利益が同2.4％減。ウェルスマネジメント業務が増収に寄与も、経費率が悪化。
- 3Qのウェルスマネジメント業務が前年同期比31％増収。AUMや預金シェアで国内首位の強みを活かし、クロスセルから手数料収入が安定。
- 地政学リスクの高まりやシンガポールの税制・通貨の強さなどを背景に富裕層向け預金やAUMが拡大。同国首位として恩恵を受けやすい。

What is the news?

11/6発表の2025/12期3Q(10-12月)は、総収益が前年同期比3.1％増の59.32億SGD、経費率が同1.2ポイント上昇悪化の40.3%、貸倒引当金繰入額が同4.6%減の1.24億SGD、純利益が同2.4％減の29.54億SGDだった。純金利マージンが縮小したものの、ウェルスマネジメントをはじめ手数料収入の増加が増収に寄与した。利益面では人件費の上昇を受けて経費率の上昇悪化が響き最終減益となった。前四半期比は、総収益が3.5%増、純利益が4.6％増、9月末の不良債権比率が同横ばいの1.0%だった。

3Qの収益の主な内訳は以下の通り。①商業銀行の純金利収益は前年同期比6.3％減の35.58億SGD。9月末貸出残高が同4.5％増加したものの、商業銀行の純金利マージン(NIM)が0.43ポイント低下の2.40％へと悪化したことが響き減収となった。②商業銀行の純手数料・コミッション収益は同22.4％増の13.57億SGD。主力のウェルスマネジメント（WM ）が31%増の7.96億SGD、トランザクション・サービスが9%増の2.48億SGD、ローン関連が25%増の1.83億SGDと増収に貢献した。③商業部門における自己財務部門の対顧客販売その他の非金利収益は同11.8％増の5.78億SGD。④市場部門収益は同32.6％増の4.39億SGDだった。

How do we view this?

2026/12通期会社計画はグループ全体の純金利収益が前期（2025/12通期）をやや下回る水準、商業部門の非金利収益が前期比1桁台後半の伸び率、経費率が40％台前半、純利益が前期をやや下回る水準としている。

アジアにおける富裕層市場の拡大を背景に、同行はウェルスマネジメント事業の強化に取り組み、競合他社を上回るペースで事業を拡大。他の大手金融機関における海外市場の同事業の買収を積極化しているほか、富裕層ニーズに対応するためのデジタル活用に注力している。

DBSの運用管理資産（AUM）は9月末時点で競合他行（OCBCやUOB）を上回る474億SGDであり、シンガポールにおける預金シェアは首位の約40％を占める。強い預金基盤を背景に他サービスとの連携によるクロスセルが容易となり、安定した手数料収入を生み出している。また、世界的な地政学リスクの高まりやシンガポールの税制、通貨の相対的な強さを背景にシンガポールの富裕層向け預金やAUMが拡大しており、同国首位の銀行として恩恵を受けやすいポジションにある。純金利マージン縮小が逆風となる中、ウェルスマネジメント事業の強みが生きるだろう。

業績推移　※参考レート 1SGD=120円

事業年度	2022/12	2023/12	2024/12	2025/12F	2026/12F
当期利益（百万SGD）	8,193	10,062	11,289	11,255	11,291
EPS（SGD）	2.89	3.55	3.97	3.96	4.00
PER（倍）	8.98	7.61	10.38	13.74	13.60
BPS（SGD）	20.11	21.89	24.24	24.46	25.20
PBR（倍）	1.29	1.23	1.70	2.22	2.16
配当（SGD）	1.36	1.74	2.22	3.06	3.28
配当利回り（%）	5.24	6.44	5.39	5.63	6.03

（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg）

配当予想（SGD）	**3.06**	（予想はBloomberg）
終値（SGD）	**54.40**	2025/12/4

会社概要

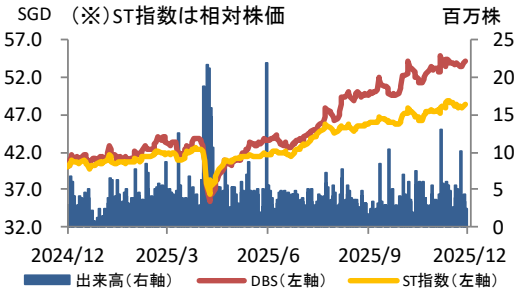
1968年にシンガポールの工業化推進と金融センターとしての発展に必要な開発資金の融資を行う目的のもと、「シンガポール開発銀行」として設立された世界的な金融サービスグループ。筆頭株主は政府系投資会社のテマセク・ホールディングス。世界の19市場に進出している。アジアの中心的な商業銀行として、中華圏、南アジア、東南アジアの3つの軸となる地域を掲げ、貿易や投資の仲介に取り組んでいる。

また、デジタル技術の活用にも積極的に取り組んでおり、雑誌「Euromoney」によって「世界最高のデジタル銀行」に選ばれ、「The banker」においても「デジタルバンキングで最も革新的な銀行」にも選ばれたことがある。

シンガポール本国では、マス・マーケットを含めた全顧客セグメントに商業銀行業務・投資銀行業務・証券業務のほか、リース・ファクタリングなどユニバーサルバンク・サービスを提供する。それ以外の地域では、コーポレート・投資銀行業務、中小・零細企業向け与信業務、ウェルスマネジメント業務に注力している。

企業データ（2025/12/4）

ベータ値	1.27
時価総額（百万SGD）	154,365
企業価値=EV（百万SGD）	-
3ヵ月平均売買代金（百万SGD）	225.1



（出所：Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

主要株主（2025/12）　（%）

1.テマセク・ホールディングス	31.89
2.CAPITAL GROUP COMPANIES INC	4.92
3.VANGUARD GROUP	2.97

（出所:Bloombergをもとにフィリップ証券作成）

リサーチ部

笹木 和弘

kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp

+81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】
本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号
TEL:03-3666-2101　　URL： http://www.phillip.co.jp/
本レポートの作成者：公益社団法人 日本証券アナリスト協会認定アナリスト、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考としてレポートの作成者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害について、フィリップ証券も、本レポートの作成者も、責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載することを禁じます。

＜日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則（平14.1.25）」に基づく表示＞
・フィリップ証券または本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。